

深韓流－韓国の「ことわざ」からみる動物－（7）

法政大学大学院経済学研究科教授 朴 侖玄*

1. 韓流，人材，そして国際交流

皆様はこの夏、どのように過ごされたのでしょうか？ 僕は大きな2つのイベントで大変だったのですが、韓流ファンの皆様のお陰でとても楽しい時間を過ごすことができました。

そのイベントについて少し説明させていただきたいと思います。1つ目のイベントは、深韓流大学プサンキャンプです。今年8月末、昨年に続き、第2回目の韓国キャンプを実施しました。今年は、釜山大学校認知能力研究所との共催で、釜山大学校で行いましたが、九州から11名の方々が参加されました。2泊3日という短い日程でしたが、僕の講演会にご参加いただくとともに、釜山の街、食、宿を楽しむというプログラムで、参加者のみなさまにはとても楽しんでいただけたようです。

男性2名、女性9名という構成で、男性の参加者は女性のパワーに圧倒されたかもしれませんが、男性の方々が国際交流における「韓流ファン」の力がいかに大事なのかを改めて認識されたようで、何よりも嬉しかったです。

また外国人にはあまり知られていない山の登山に挑戦し、そこで偶然出会った韓国人の方々と交流することができました。参加者のみなさんは、韓国人男性がいかに「オッパ～（年下の女性による年上の男性への呼び方）」という言葉に反応するのかを自ら実証することもできて、とても貴重な体験をしました。

年齢を重ねれば重ねるほど、家族のために、会社のために使う時間が多くなる分、自分の時間を

作ることが難しくなります。それにもかかわらず、韓流ファンの多くの方々は、時間を作り、自ら韓国へと旅立つのです。その勇気ある行動には僕も感服しますが、日本では体験出来ないたくさんのことを学ぶことができると思います。

旅行中には、時には感動したり、時には傷ついたりして、新たな外国の文化やいろんな考え方をもつ現地の人々に出会うことができます。その過程で、外国人の考え方や文化を自然に受け入れられる能力、即ち「寛容度（Tolerance）」が育てられるのです。その寛容度こそが、「個々の住む居住地＝地域の国際化」を推進する大きな力になると個人的に思うのです。

読者の皆様も忙しいとは思いますが、九州から一番近い外国、韓国へと足を運んでみてはいかがでしょうか？ きっと、新たな自分、国際交流にまさに貢献している自分に会えるはずですよ。

僕は今回の深韓流大学プサンキャンプを通じて、外国との交流に「フィールドワーク（現地調査。実際行って自分で体験してみる行為）」がいかに大事なのかを改めて思いました。

そしてこの夏の2つ目のイベントは「深韓流大学市民講座in高松」です。

読者の方々の中では、2年前に北九州市で実施された「深韓流大学市民講座」に参加された方も多いかと思います。今年は香川大学大学院マネジメント研究科の主催で、8月から高松で「深韓流大学市民講座」を開催することになりました。実はこの企画、僕の知らないうちにどんどん進められ、決定されたのです。

* オフィシャルホームページ URL : <http://www.pakusensei.com/>

その背景には1人の中心人物がいました。今まで僕自身が提案してきた『深韓流（しんはんりゅう）＝韓流ドラマ・映画・K-POPなどの大衆文化を通じてより深く韓国・韓国人の文化・価値観を理解する行為』と「その深韓流が国際交流に何より大事で、そのためには深韓流大学市民講座が必要だ」という僕の意見に賛同してくれた人がいました。国際東アジア研究センターの元研究員で、現在香川大学大学院地域マネジメント研究科の亀山嘉大准教授がその理解者の1人です。

亀山准教授は、昨年から香川大学大学院へ赴任となったのですが、香川県や地元の方々との交流の飲み会の中で「パク先生が提案する深韓流大学市民講座」について触れたようです。

その時、香川県の職員の方々や民間企業（アナ航空）の担当者が「深韓流大学市民講座」に非常に強い関心を示してくださったようで、なんと2ヵ月もかからないうち「深韓流大学in高松」を開催することが決定されたのです。

来日以来、物事を進める時に韓国に比べて遥かに長い時間を要する意思決定のプロセスにいら立っていた僕ですが、今回はあまりにも速いスピードで物事が決まり、それも後からその結果を知らされると正直、少し怖くなったぐらいです。しかも予算もないのに…。こんなに早く物事が決まったことは、おそらく初めての経験でした。

最終的には、8月から毎月一度、5回のプログラムの講演会を開催することになり、8月第1回目の講演会にはたくさんの方々に参加され、また違う意味での「地方都市の活性化と韓流の役割」について考える貴重な機会をいただきました。もちろん参加者の多くは韓国語を熱心に勉強するマダムの方々で、そのパワーのため講演会の会場はとても熱かったのです。

僕は高松でのイベントを進める中で1つ大事なことを学ぶことができました。おそらく亀山准教

授がいなかったらこの企画は、高松で実行されなかったでしょう。「亀山さん」という1人の人材が小倉から高松に移動することによって、僕が提案していた「深韓流と国際交流＝深韓流大学市民講座」も北九州を越えて高松まで広がったのです。

この過程で、僕は国際交流に関して「人材」がいかに関心のかを間接的に経験しました。行政・学者・民間企業・住民がそれぞれいかに国際交流に強い関心をもつのか、それを実行するためにどれほど強い意思をもっているのかどうか次第で、国際交流事業は大きく拡大することも縮小することもできるのです。

予算も付いてない事業を単年度に実施することがいかに大変か、日本人の方々ならば、お分かりだと思いますが、予算もない事業を今年中に実施できたのは、やはり今回、イベントを企画した関係者のみなさまの「国際交流に対する強い意思」があったからこそと個人的には思います。その意思こそが国際交流を推進する大きな柱となっていると思います。

「僕たちは何をもって国際交流を定義するのでしょうか?」「なぜ国際交流をするのでしょうか?」「その意味は?」このようなとても単純な疑問を一度は真剣に考えてみるのもいいのではないかと思います。

僕がこの紙面を通じて「ことわざ」を取り上げ日本の方々に韓国人の考え方や価値観について発信していくことも、深韓流のプロジェクトの一環でありますし、読者の方々が韓国へもう少し近づいて行くために少しでも役に立てればという願いで執筆をしているのです。

2. 韓流ファンと韓流スターの行動の違い

「深韓流大学in高松」の講演会で、1人の受講者からとても面白い質問があったので、みなさんに

ご紹介したいと思います。

「日本でも、アイドルやスターのファンはいろんなプレゼントをするのですが、その中でも食べ物を差し入れた場合、それを食べてくれるスターは恐らくいないと思います。でも韓国ではそうではないようです。実は、私、東方神起（どんぱんしんき）が大好きで、韓国のファン・ミーティングに参加したら、食べ物を差し入れるファンもたくさんいて、それをその場で食べてくれるスターをみて本当にびっくりしました。万一変なものでも入っていたら大変でしょう。このようなことは一般的なことでしょうか？ それならその背景や理由を教えてくださいませんか？」

韓流ファンの前で講演会をすると、このように僕が全然気づいていなかった文化の違いを参加者皆さんから教えてもらう時も少なくありません。僕自身も、韓国の文化について考えるいい機会となり、韓流ファンのお陰で勉強するきっかけがもらえるのです。

それはさておき、受講者の質問の答えはとても単純です。韓国人にとって「食べ物」は日本人が思っている以上に特別なものだからでしょう。

人間が生きるために何より大事なものは「食」ですが、古くから韓国では、このような言い方があります。

「食べ物を持っていたらずら（悪用）したら罰が当たる」

「먹는 것 가지고 장난치면 벌 받는다」

（モンヌン／コッ／ガジゴ／ジャンナンチミョン／ボル／バンヌンダ）^(注1)

韓国へ足を運んだことのある方にお聞きしたいのですが、最初どのような韓国の文化に一番驚くのでしょうか？ いろいろあるかと思いますが、その中でも、食事を頼んだ時に定食に付いてくる「お

かず（バンチャン、반찬）」の多さに、しかもおかわり自由という文化にびっくりされるのではないのでしょうか？

「そんなにおかわり自由でもうけはあるの？」「後で追加料金を払わされるのではないの？」と疑問をもつ方も、不安になる方も少なくないはずです。

韓国人は、会話の中で「人心（インシム, 인심）」という言葉をよく使います。人の心という意味で、何かをする時に人情があふれる時には「人心がいい（インシム／チョッタ, 인심 좋다）」、人情がない時には「インシム／ヤバクハダ(인심 약하다)」という言い方を日常生活でよく使います。中でも「食べ物」にこの言葉をよく合わせて使うのです。

4～5年前でしょうか。バンコクへ旅行した時、コリアタウンのある焼肉屋に入ったのです。そこでおばあちゃんが従業員を叱っていました。「このテーブルにおかずがないでしょう。いなくてもちゃんと食べられるようにおかわりを出してあげないと！」

どこの国にいても韓国人はレストランで食べる時に、おかずの数と量には非常に敏感になるのです。おかずの量が少なかったり、おかわりを頼んだのに嫌な顔をされたりするとたちまちその店の評判は悪くなり「食べ物のインシムヤバクハダ」という噂が立ち、営業にすぐ支障がでるのです。それほど韓国人の中では、「食」や「食べ物」は特別で大事な意味をもつのです。

日常生活の中の挨拶の言葉でも分かるでしょう。

「ご飯食べましたか？」

「밥 먹었어? (バブ／モゴッソヨ?)」^(注2)

年齢を問わず、韓国人は挨拶代わりに、ご飯を食べたのかどうかを聞くのです。日本人からしてみれば、ご飯に誘われているのかなと誤解することも少なくないようですが、別に誘われているわ

けではありません。どちらかという誘っている場合は「ご飯食べに行こうよ!」とはっきりというのです。実にこの言葉に戸惑わされていた日本人も多いようですね。

僕の母親は未だに国際電話をかけてきては、40歳を過ぎた息子に「ランチは食べた?」「朝は何食べたの?」と毎日のように聞くのです。

なぜ韓国人はこのように会話の中で「食べ物(ご飯)」に執着するのでしょうか?

韓国人にとって、相手に対する「最高の愛情表現の1つ」が「食べ物」なのです。だからファンは韓流スターのために、一生懸命に手作りの料理をするし、韓流スターはその気持ちを大事にしようとそれを目の前で食べるのです。

それほど、韓国人は「健康」と「食」に、日本人以上に気を配るのです。

余談ですが、コリアンエアやアジアナ航空に乗る機会があれば、一度、免税品のメニューに目を通していただきたいと思います。他の国の航空会社と同じくブランド品も揃えていますが、それよりも健康食品のメニューが非常に多いことに気づくでしょう。それも韓国人が「食べ物」をいかに大事にしているのかを示す証拠ではないでしょうか?

食を大事にする韓国人の価値観は、古くから伝えられていることわざにも多く表現されているのです。

「食」を象徴する動物の1つが「牛」です。

はっきりとは覚えてないのですが、2年前、韓国に帰省した時、「無限挑戦(ムハンドジョン, 무한도전)」という韓国の人気バラエティ番組をみた時でした。

お笑いの有名司会者、ユ・ジェソクはグラウンドに出演者と座り、「牛に関することわざをいみましょう。もしいえなかったらグラウンドの反対にあるサッカーのゴールポストまで走って行って

来るように!」というゲームをしていたのです。

韓国では、この番組だけではなく、あらゆる番組で「ことわざ」はゲームのネタとしてよく登場するのです。

今回は、前回に続き、動物のことわざの中で「犬(개, 개)」に次ぐ多いことわざ「牛(소, 소)」についてお話したいと思います。

韓国のことわざで牛はどのように使われているのでしょうか?

牛はもくもくと働く勤勉な動物を象徴するポジティブな意味で使う場合と、体が大きいためか鈍く遅いというネガティブな意味で使う場合があります。

以下では、勤勉の象徴、財産の象徴、悪さの象徴に関する牛のことわざを取り上げてお話したいと思います。

3. 勤勉の象徴

古くから牛は勤勉で働く動物の象徴です。そのような脈絡で、次のようなことわざがあります。

「소는 농가의 조상」

(ソヌン/ノンガエ/ジョサン) (注3)

直訳すると「牛は農家の祖先」という意味ですが、「農家では牛がとても重要で、祖先のように偉大な存在だ」という意味で、よく使われることわざです。

ここで、韓国人にとっての「牛」と「祖先」の意味についてお話したいと思います。

牛は韓国人にとって最高を意味する食べ物でもあります。『エデンの東/「에덴의 동쪽」(注4)』『アクシデント・カップル/「그저 바라 보다가」(注5)』『シンデレラのお姉さん/「신데렐라 언니」(注6)』など、多くの韓流ドラマをみても分かるように、ストー

リーの中心には「庶民＝経済的に貧しい」と「セレブ＝裕福で経済的に恵まれている」との対立構造があります。

その中で、貧しい生活または庶民ぶりをみせる時にかかせないのが「豚（デジ, 돼지）」つまり「三枚肉（サムギョプサル, 삼겹살）」という食材です。これに対して、大金持ち（セレブ）の生活ぶりを描く時には必ずといっていいように、「韓牛（ハンウ, 한우）」を食べるシーンが出てきます。

余談ですが、このように豚のシーンがととても多いために、日本人の方には、韓国人は牛よりも豚が好きで国民というふうに考えがちですが、それは少し違うようです。

韓国人の若者にごちそうするから「牛」と「豚」どちらを食べたいかと聞いたら、おそらく10人中10人は「牛」というでしょう。サムギョプサルという豚肉がとても人気があるわけですが、それはリーズナブルだから食べるだけで、他人にごちそうになるなら美味しくて普段食べられない高い肉である「牛」を食べるという考えをもつ人が多いでしょう。このように「食」を大事にする韓国人が思う「牛」は特別なものです。

またこのような牛は、古くから農家の財産でもありました。『裸足の青春／「맨발의 청춘」^(注7)』をはじめ、多くの韓流ドラマで、田舎からソウルの大学へと進学するというシチュエーションには、必ず農家の家で「牛一頭」を市場で売却して、入学金を用意するというシーンがみられます。農家にとって、主人公の出世にとって、牛は貴重な財産だったのです。

近代化の進んだ韓国社会でも、未だに古い習慣がたくさん残っています。その1つが「族譜（ジョクボ, 족보）」と呼ばれる一族の系図を表す資料なのです。

儒教の教えで、年上を重んじる精神はみなさんもお存知だとは思いますが、「祖先」に対する誇

りも日本人が想像する以上に大きいのです。現在、ほとんどの家系ではこのようなジョクボをもっていますし、祖先を重んじる精神は、ジェサ（제사）という韓国特有の祭事にも現れます。お嫁に行く時に家系に祭事が多いのかどうかで嫁の負担をはかれます。

韓国ではお盆やお正月では親戚がたくさん集まりますが、その数は日本に比べるととんでもなく多いのです。ちなみに僕も正月に実家に戻った時、母親の兄弟の家に行くと、大体40人以上の親戚が1つの家に集まります。

核家族が進む現代韓国社会の中でも、やはり日本に比べれば「祖先」に対する敬意は重みをもっているのです。そのような重みに、動物の中でも一番大事にされている財産。つまり牛をあわせることで、牛がどれほど偉大な存在なのかを表しているのです。

「소같이 벌어서 쥐 같이 먹어라」

（ソガチ／ボロソ／ジュイ／ガチ／モゴラ）^(注8)

直訳すると「牛のように稼いで、ネズミのように食べる」となりますが、「牛のように勤勉で一生懸命に仕事をして、使う時はネズミのようにすこしずつ使う」という意味です。「仕事は一生懸命に働いて、質素な生活で暮らす方が望ましい」という意味で、日常会話の中でよく使われます。前にも説明したように、「牛」はもくもくと働く勤勉な動物の象徴でもあります。「牛」の勤勉さを取り上げ、人間に働く時には「誠実さがなにより大事だ」というメッセージを送っているのです。牛は鈍いかもしれませんが、忍耐力と誠実さがある勤勉な動物として、このように、「働く時の模範」として例えているのでしょう。

ところで稼いだお金を使う時には、より慎重に使った方がいいという意味で「ねずみ」にもたと

えているのです。いくらお金持ちになっても質素な生活が大事だというメッセージを伝えているのです。似ている表現で次のようなことわざもあります。

「돼지같이 먹고 소 같이 일한다」
(デジガチ/モッコ/ソ/ガチ/イルハンダ)^(注9)

直訳すると「豚のように食べて、牛のように働く」という意味ですが、働く前には、豚のようによく食べて体力を備蓄して、働く時は、勤勉で忍耐のある牛のように働いた方がいいというメッセージを伝えているのです。

「되는 집에는 암소가 세마리 안되는 집에는 계집이 셋」
(デヌン/ジベヌン/アムソガ/セマリ/アンデヌン/ジベヌン/ゲジプイ/セッ)^(注10)

直訳すると「うまくいく家には雌牛が3頭で、つぶれる家には側室が3人」となりますが、「雌牛が3頭もあれば家は栄えるが、側室が多いと家が滅びる」という意味でよく使われます。

『花より美しく/「꽃보다 아름다워」^(注11)』をはじめ、多くの韓流ドラマの中では家父長的家庭の様子がよく描かれています。中でも夫(父)は愛人を作り、正妻を苦しめて、そして正妻はやがて愛人を認めるというなんとも酷い(?)ストーリーも少なくありませんが、韓流ファンの目にはどうもそれが理解できないようです。

韓国人は日常生活の中で、よく「勸善懲惡(グオンソンジンアク, 권선징악)」という言葉を用います。「良い事を勧めて悪いことを罰する」という意味でよく使われていますが、『チャングムの誓い/「대장금」^(注12)』など多くの韓流ドラマが視聴者に伝える中心的なメッセージ(教訓)

となっているのです。このことわざもその脈略で解釈することができるでしょう。

同じ「雌牛」でも、その対象が「雌牛」であるか「側室」であるかとは、家が栄えるか滅びるかのまったく対照的な結果を招くことを強調しているのです。即ち「雌牛」は家を支えて栄える大事な存在ですが、家の主人に側室がたくさんいたら、それは家が滅びることになるというメッセージを伝えているのです。

成功の象徴として「雌牛」を、失敗の象徴として「側室」をそれぞれ取り上げ、家の栄枯盛衰を例えているのです。

4. 財産の象徴

牛は、勤勉な意味だけではなく、財産や裕福さを象徴する動物として、ことわざによくたとえられているのです。

「마늘 도둑이 소 도둑 된다」
(バナル/ドドクイ/ソ/ドドク/デンダ)^(注13)

直訳すると「針の泥棒が牛の泥棒になる」という意味ですが、「針を盗む人は、繰り返して盗むと結局、牛まで盗む」ということで、「いくら小さな悪い事でも繰り返すと、大きな罪を犯す」という意味でよく使われます。

小さなことの象徴、あるいは安物の象徴として「針」を取り上げ、それとは対照的に、大きなものの象徴、高いものの象徴として「牛」を取り上げ、「泥棒」という悪い行為に例えて、悪いことを繰り返しているとどんどん悪い方向へと進むことを警告しているのです。

このことわざは韓流ドラマだけではなく、政治家の汚職や賄賂事件を扱う新聞記事の見出しでもよくみられることわざです。

「닭 잡아 잔치 할 것을 소 잡아 잔치한다」

(ダク/ジャバ/ジャンチ/ハル/ゴッスル/ソ/ジャバ/ジャンチ/ハンダ) (注14)

直訳すると「鶏をとって宴会することに、牛をとって宴会する」ということですが、「少ない費用で済む祝い事に、必要以上にお金をかけて祝う」という意味でよく使われます。

韓国では古くから祝い事がある時は大勢の人々を招いて「ジャンチ (잔치)」と呼ばれる韓国スタイルの宴会を開くのです。韓流ドラマの中で結婚式を行うこともあるのですが、ジャンチの時に欠かせない食べ物が「鶏」と「牛」なのです。「鶏」は比較的小さな祝い事に、そして本当に大事な祝い事にだけ「牛」を使うのです。とくに「鶏」は韓流ドラマの中でもよく登場するアイテムです。

『ソル薬局の息子たち/「술약국집 아들들」(注15)』『不屈のお嫁/「불굴의 며느리」(注16)』などの韓流ドラマをみても分かるように、大家族が中心となってストーリーが展開されているのです。

その中で、大事な人(主人公が付き合っている相手)が家を訪ねてきたら、必ずといてもいいほど「雌鶏 (シアムタク, 씨암닭)」を煮込んで、食事を用意するのです。

家を訪ねてきた人に、「シアムタク」を出すという行為は、その相手が大事にされているという気持ちの表れなのです。いわば、韓国式のおもてなしの気持ちを表すことなのです。

一般的な祝い事や接待する時には、「鶏」で十分でしょうが、もっと大事な時、結婚式や息子の成功、あるいは難関を切り抜けて一流大学への入学を祝う時は、「牛」を使うのです。

要するに、祝い事の重み次第で、接待する食べ物が「鶏」か「牛」に決まるのですが、「鶏」で十分な祝い事、「牛」を使って祝う必要までないのに、必要以上の祝い事をしたという意味でよ

く使われているのです。

それほど大事、高級であるという象徴として「牛」は例えられているのです。

「빈 외양간에 소 들어 간다」

(빈/ウェヤンカンエ/ソ/ドゥロ/ガンダ) (注17)

直訳すると「空いた牛小屋に、牛が入って行く」という意味ですが、「本来あるべき理想の状態になる」または「物事がうまく調和されてバランスがよい」という意味でよく使われます。

読者のみなさんも想像してみてください。牛がいない牛小屋を。牛小屋は牛があつてこそ意味がある場所ですが、牛がいない牛小屋に、牛が入って行ったら、本来の理想の状態になるのではないのでしょうか？

物事がうまく行かない時や、理想通りにならない時、それを理想の形にしてくれるものとして「牛」に例えたのです。似ている表現で次のようなことわざがあります。

「빈 집에도 소 들어갈 날 있다」

(빈/ジベド/ソ/ドゥロガル/ナル/イッタ) (注18)

直訳すると「空いた家にも、牛が入って行く日が来る」という意味ですが、「財産がない(貧しい)家が、おもいもかけない財物にありつく」という意味でよく使われます。

最近、韓国でも日本と同じく、新しい言葉がどんどん産まれて、僕が韓国にいた頃にはなかった言葉が日常会話で普通に使われることもたくさんあります。その代表的な言葉の1つが「デバク (대박)」なのです。

「大当たり=大金持ちになる」という意味で使う言葉ですが、僕の時代にはこの言葉がなく、そ

のかわりに「ウェンジェ (횡재)」と言葉をよく使いました。ウェンジェとは、思いがけない財産にありつくことを意味しますが、どうも最近「デバク (대박)」が主流になったようです。僕の母親も使うぐらいですから。

ところが、実に韓国人はデバクという言葉をよく口にするのです。一般の人々だけではなく、韓流スターも、インタビューの中で必ずといっていいほどデバクを口にしてしているのです。それは、自分が参加したアルバムが、自分が出演しているドラマが「大当たりになるように」という意味で、話すのです。

2年前、韓流ドラマ『ドリム / 「드림」^(注19)』の主人公、チュ・ジンモ (주 진모) がバラエティ番組で、涙を流しながら無名の俳優時代にいかに苦労したのかを語ったのをみて、一握りのものだけが成功を収める芸能界ではまさにみんながデバクを夢見ているのだと思いました。

本当に貧しい時、辛い時に光が見えてようやく暗闇から抜け出した時、このことわざをよく口にするのです。そのときに牛は「財産」の象徴として例えられているのです。

5. 悪さの象徴

「勤勉」「忍耐力」「財産」というポジティブな意味で「牛」は例えられていますが、「愚かな」「鈍い」というネガティブな意味でも例えられているのです。例えば、次のようなことわざがあります。

「소 귀에 경 읽기」

(ソ / ギエ / ギョン / イルキ) ^(注20)

直訳すると「牛の耳に経典 (聖人の言葉をかいた本) を聞かせる」という意味ですが、日本でいう「馬の耳に念仏」と同じような意味で使われて

いるのです。いくら教えても理解してもらえない時や効果がない時によく使われているのです。

韓国では、日本と違って、古くから「武官」よりも「文官」を高く評価する価値観をもっていたのです。「頭の悪い人」「鈍い人」に対しては、日本人以上に社会や組織の厳しい評価が下されていたのです。

いつも黙々と仕事ばかりする「牛」は、時にはこのように頭の悪い (鈍い) 存在として例えられているのです。鈍い人にくら教えても理解してもらえないし、説教や説得の効果がない時に、そのいらだちをことわざで表現しているのです。

ところが、韓国のこのことわざは、頑固な性格の人が成果もあげられない仕事をずっと続けている時に、それは無駄だという意味でもよく使われているのです。

韓流ドラマの中で、いくら説教しても言うことを聞かない主人公がよく登場しますが、それは頭が悪いというより、頑固な性格のためだといえるでしょう。そんな主人公が執着している相手や仕事に、ひとつも成果が期待されない時、彼に向かって親や先輩はこのことわざをよくいうのです。

「못된 송아지 엉덩이에 빨란다」

(モッテン / ソンアジ / オンドンイヘ / プルナ
ンダ) ^(注21)

直訳すると「悪い子牛はお尻に角が出る」という意味ですが、韓国では、生意気な人や無礼な人に向かって、このことわざをよく使うのです。

子牛に角があるはずがないのです。通常、角は大人の牛になってから成長に伴って出てくるのですが、「子牛に角がある」という表現を使って、「普通の子牛とは違う」「大人の牛のまねをする」ということを表しているのです。

しかも角が出てくるはずの頭ではなく、その正

反対の部分であるお尻に出てくるという表現を使って、「通常ではない＝常識がない＝生意気」ということを意味しています。

年上を重んじる精神が強い韓国で、とくに年下の生意気な行動や年上に対して礼儀正しくない行動は決して許されないのですが、そのような様子がみえる時に、よくこのことわざは使われているのです。韓流ドラマでも、親の世代が若い世代、とくに生意気な主人公に向かって、このセリフをいう時が多いのです。

6. 結び

今回は、韓国のことわざに表現されている動物なかで牛についてお話ししました。「勤勉」かつ「忍耐力」をもっているから、その特性が人間にも求められたのではないのでしょうか？

注

(注1) 「モンヌン」は「食べる」,「コッ」は「物」を,「ガジゴ」は「もって」,「ジャンナンチミョン」は「いたざらしたら＝悪用したら」,「ボル」は「罰」,「バンヌンダ」は「受ける」をそれぞれ意味します。

(注2) 「バプ」は「ご飯」,「モゴッソヨ?」は「食べたのですか?」をそれぞれ意味します。

(注3) 「ソヌン」は「牛は」,「ノンガエ」は「農家の」,「ジョサン」は「祖先」をそれぞれ意味します。

(注4) 2008年8月25日～2009年3月10日までMBCで放映された56部作のドラマです。ソン・スンホン (송승헌, イ・ドン Chol 役), ヨン・ジョンフン (연정훈, イ・ドンウク 役), パク・ヘジン (박혜진, シン・ミョンフン 役), イ・ヨニ (이연희, クク・ヨンナン 役), ハン・ジヘ (한지혜, キム・ジヒョン 役), チョ・ミンギ (조민기, シン・テファン 役) などが出演しています。

(注5) 2009年4月29日～6月18日までSBSで放映された25部作のドラマです。キム・アジュン (이연희, ハン・ジス 役), ファン・ジョンミン (황정민, ク・ドンベク 役), チュ・サンウク (주상욱, キム・ガンモ 役), ジョン・ミソン (전미선, チャ・ヨンギョン 役) などが出演しています。

(注6) 2010年3月31日～6月3日までKBSで放映された20部作のドラマです。ムン・グニョン (문근영, ソン・ウンジョ 役), チョン・ジョンミョン (최정명, ホン・ギフン 役), ソウ (서우, ク・ヒョソン 役), テギョン (택연, ハン・ジョンウ 役), イ・ミスク (이미숙, ソン・ガンスク 役), キム・ガプス (이미숙, ク・デソン 役) などが出演しています。

(注7) 1998年2月21日～3月24日までKBSで放映された16部作のドラマです。ペ・ヨンジュン (배용준, ハン・ヨソク 役), コ・ソヨン (고소영, キム・ヘジュン 役), チョン・ソンモ (정성모, コ・ガンス 役), パク・クニョン (박근형, キ・ソングジェ 役), イ・ジョンウオン (이종원, チャン・サンヨブ 役), ビョン・ウミン (변우민, キ・スンジン 役) などが出演しています。

(注8) 「ソガチ」は「牛のように」,「ボロソ」は「稼いで」,「ジュイ」は「ねずみ」,「ガチ」は「のように」,「モゴラ」は「食べる」をそれぞれ意味します。

(注9) 「デジガチ」は「豚のように」,「モッコ」は「食べて」,「ソ」は「牛」,「ガチ」は「のように」,「イルハンダ」は「働く」をそれぞれ意味します。

(注10) 「デヌン」は「うまいく」,「ジベヌン」は「家は」,「アムソガ」は「雌牛が」,「セマリ」は「3頭」,「アンデヌン」は「うまいくかない」,「ジベヌン」は「家には」,「ゲジパイ」は「女が」,「セッ」は「3人」をそれぞれ意味します。

(注11) 2004年1月1日～4月14日までKBSで放映された30部作の歴史ドラマです。ゴ・ドゥシム (고두심, イ・ヨンジャ 役), チュ・ヒョン (주현, キム・

ドゥチル役), キム・ミョンミン (김 명민, チャン・インチョル役), キム・フンス (김 흥수, キム・ジェス役), ベ・ジョンオク (배 종옥, キム・ミオク役), ハン・ゴウン (한 고은, キム・ミス役), パン・ウンヒ (방 은희, ジェゴンの母役) などが出演しています。

(注12) 2003年9月15日～2004年3月30日までMBCで放映された54部作の歴史ドラマです。イ・ヨンエ (이 영애, チャングム役), チ・ジニ (지 진희, ミン・ジョンホ役), ホン・リナ (홍 리나, チェ・グミョン役), イム・ホ (임 호, チュンジョン役), イム・ヒョンシク (임 현식, 칸・ドック役), グム・ボラ (금 보라, ナジュテク役), ヤン・ミギョン (양 미경, ハン・ベギョン役), キョン・ミリ (권 미리, チェ・ソングム役) などが出演しています。

(注13) 「バヌル」は「針」, 「ドドクイ」は「泥棒」, 「ソ」は「牛」, 「ドドク」は「泥棒」, 「デンダ」は「なる」をそれぞれ意味します。

(注14) 「タグ」は「鶏」, 「ジャバ」は「殺して」, 「ジャンチ」は「宴会」, 「ハル」は「する」, 「ゴッスル」は「ことを」, 「ソ」は「牛」, 「ジャバ」は「殺して」, 「ジャンチ」は「宴会」, 「ハンダ」は「行う」をそれぞれ意味します。

(注15) 2009年4月11日～10月11日までKBSで放映された54部作のドラマです。ソン・ヒョンジュ (손 현주, ソン・ジンプン役), イ・필모 (이 필모, ソン・デプン役), ハン・サンジン (한 상진, ソン・ソンプン役), チ・チャンウク (지 창욱, ソン・ミプン役), ユン・ミ라 (윤 미라, ペ・オッキ役), キム・ヨンゴン (김 용건, オ・ヨンダル役), キム・ヘオク (김 혜옥, 안・ムンスク役), ユ・ハナ (유 하나, オ・ウンジ役) などが出演しています。

(注16) 2011年6月6日からMBCで放映している120部作(予定)のホームドラマです。シン・エ라 (신

애라, オ・ヨンシム役), 칸・ブジャ (김 보연, チェ・マクヨ役), キム・ボヨン (김 보연, チャ・ヘジャ役), イ・ハヌイ (이 하늬, キム・ヨンジョン役), パク・ユンジェ (박 윤재, ムン・シンウ役), キム・ヨンゴン (김 용건, ムン・セジン役), イ・フン (이 훈, ムン・ジンウ役), イム・ヘジン (임 예진, キム・グムシル役) などが出演しています。

(注17) 「ビン」は「空いた」, 「ウエヤンカンエ」は「牛小屋」, 「ソ」は「牛」, 「ドゥロ」は「入って」, 「ガンダ」は「行く」をそれぞれ意味します。

(注18) 「ビン」は「空いた」, 「ジベド」は「家にも」, 「ソ」は「牛」, 「ドゥロガル」は「入って行く」, 「ナル」は「日＝時」, 「イッタ」は「ある」をそれぞれ意味します。

(注19) 2009年7月27日～9月29日にSBSで放映している20部作のドラマです。チュ・ジンモ (주 진모, ナム・ジェイル役), ソン・ダンビ (손 담비, パク・ソヨン役), キム・ボム (김 범, イ・ジャンソク役), パク・サンウォン (박 상원, 칸・ギョントク役), チェ・ヨジン (최 여진, ジャン・スジン役), イ・ギヨン (이 기영, パク・ビョンサム役), オ・ダルス (오 달수, イ・ヨンチュル役), キム・ウン (김 웅, 멘・ドビル役) などが出演しています。

(注20) 「ソ」は「牛」, 「グイエ」は「耳に」, 「ギョン」は「経典を」, 「イルキ」は「読む」をそれぞれ意味します。

(注21) 「モッテン」は「悪い」, 「ソンアジ」は「子牛」, 「オンドンイへ」は「お尻に」, 「プルナンダ」は「角が出る」をそれぞれ意味します。